

新しい駐車場の整備により、偕楽園へのアクセス性が向上

－新旧表門駐車場の活用と大型バス通行社会実験の取組－

目的

- ◆偕楽園の表門は、創設当時、民衆が入園する門であり、**表門からの入園**は、徳川斉昭の設計思想である『陰』（竹林・杉林）から『陽』（梅林）の**世界観の変化**が堪能でき、偕楽園の魅力をより一層体感できる

➡ **表門からの入園を推奨！**

課題

- ① 身障者駐車場が、表門から遠い
- ② 表門付近には大型バスが乗降できる駐車場がない
- ③ 御成門通りは、幅員が狭いうえ、一方通行区間や急カーブがあり、大型バスの通行が規制されている



新駐車場整備等・社会実験の概要

- ① **表門から徒歩1分**、偕楽園により近い**身障者駐車場**を新たに**12台整備**（身障者等優先）
- ② 旧駐車場を**バス降車場所**として活用
- ③ 大型バス通行のため、**御成門通りの道路改良**、**バス停留所の改良**を実施



表門からの周遊ルート体験を実施！

参加者：2,600人（大型バス通行の社会実験）
参加事業者：10者、バス75台（うち62台が関東圏発着）
実施期間：2024年2月21日～3月17日（梅まつり期間）

➡ 参加者に**表門からの周遊ルート**を体験してもらい、参加事業者の約7割から、**このルートが良いと好評！**



事業効果

- ◆新駐車場整備により、**身障者用駐車場がより近くに！**
- ◆既存駐車場を**バス乗降場所**として活用することにより、これまでの駐車場利用と比べて、入園まで高低差が少なくなるとともに、**入園時間が約10分短縮！**（これまでは千波湖西駐車場で乗降）
- ◆『**表門からの周遊ルートが良い**』と**好評！**



表門からの入園を促すことで
偕楽園の魅力を体感！！

身障者等や大型バス乗客にとって
偕楽園へのアクセス性が向上！！

表門からの周遊ルート

